

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年4月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2276100316		
法人名	特定非営利活動法人しおさい		
事業所名	グループホームしおさいの家		
所在地 (電話番号)	御前崎市池新田7449-1	(電話) 0537-85-6411	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年1月29日		

【情報提供票より】(平成20年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.2 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り 1階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(1月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.8 歳	最低	85 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥村医院 ファミリー歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋建てで、地域の住宅とも調和した民家風のホームで、開設から4年余りが経過する。開設以降利用してきた利用者もやや重度化してきているが、馴染みの職員のさりげない支援により、充実した日々を過ごしている。利用者及び家族から安心と信頼を深める取り組みをこれまで継続して行ってきたことは、家族アンケート回答にも記されている。地域に根づくホームづくりを開設以降行い、ホームと認知症の理解にも取り組みながら、日常生活の中で自然に地域住民と触れ合う中で、地域の福祉の拠点ともなっている。常に利用者本位でサービス提供を行うとともに、更により良い取り組みを考えているので、今後の取り組みにも期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で指摘事項となった点については、ホーム内で話し合い、計画的に改善を図ってきている。改善も理想を職員で掲げ、より良い取り組みに向けられるよう取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を行う意義を職員全員が理解し、全ての職員で自己評価に取り組んだ。一つひとつの項目趣旨と意義を理解し、これまでを振り返り、更なる取り組みに繋げる機会として前向きに取り組んだ。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的に開催し、幅広い関係者に参画を得て、利用者の生活の向上に繋げていく位置付けをもって取り組んでいる。地域関係者との関わりも深まっているので、この会議を活用して、更なる取り組みに繋がられるように期待したい。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームだよりである「しおさい通信」を毎月発行し、それぞれの家族にコメントを加えて送付している。家族が訪問する際にも気軽に何でも言える雰囲気づくりに努め、より良い運営とサービスに向けて取り組む姿勢を有している。家族とのコミュニケーションの充実と運営の透明性を図り、より良い運営繋がりたいと考えているので、今後の取り組みにも期待できる。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域が行うお祭や産業祭、自治会行事の道路清掃等に積極的に参加している。また、幼稚園の運動会等にも招かれて参加している。近隣住民との交流も日常的で、散歩の際等には野菜を頂くことも多い。ホームへの理解と併せて、認知症高齢者の理解にも努め、地域に根付いたホームとなっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念を職員で再検討し、地域密着型サービス事業所としての理念を5項目策定し、具体的に明示している。理念は内外に示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、定期的に職員間で話し合いを行い、それに向けて取り組めるように確認し合っている。地域密着型サービスの充実に向けて、利用者を中心としたホームづくりに一丸となって取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設以降、隣組(班)や地域自治会との繋がりを深め、地域行事や祭り等にも積極的に参加してきた。また、近隣住民との交流も日常的に行われ、野菜や果物をもらったりする等、日常生活において自然にふれ合う関係となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全ての職員で自己評価に取り組んだ。これまでの取り組みを振り返る良い機会と考え、一人ひとりの抱える課題や問題を全員で共有した。常により良くしようとする姿勢で取り組んでいる。	○	自己評価で得た課題等を職員間で共有し、計画的に改善を図るとともに、これまで以上に良くしていこうと考えている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に3ヶ月一度開催している。委員構成も幅広く、家族や地域自治会役員の参加も得て実施している。会議で検討した内容は記録し、職員間で共有している。	○	これまでの記録からは、ホームや行政からの説明がやや多い。利用者の生活の質の向上に向けた検討やサービスの向上に向けた話し合いが深まるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが市役所近くにあり、市担当課職員とは日常的に交流できる関係が確立している。市で行われる講演会や講習会等の情報入手し、参加している。	○	保険者である市(職員)に働きかけ、地域密着型サービスの充実に向けた定期的な話し合いや、利用者の生活充実に向けたケース、事例検討が行われるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際には、利用者の暮らしぶりや健康状態などを伝えるとともに、ホーム便りである、「しおさい通信」を毎月発行し、家族や地域、包括支援センター等に配付している。また、担当職員は毎月手紙を書いて、家族に送付している。	○	「職員に気軽に話せるか」という旨の趣旨のアンケート行ったりして、家族と気軽に話せる関係づくりを継続して行っている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が何でも言える雰囲気づくりに努め、意見は些細な事柄でも真摯に受け止めるようにしている。家族から意見のあった場合には、ホーム内で検討し、運営に反映させるようにしている。苦情窓口についても明確に示し、あった場合には速やかに対応する仕組みが確立している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動に対する弊害を良く理解し、できる限りそれを防ぐように取り組んでいる。開設以降の離職者も少なく、情報の共有と一丸となった取り組みに心掛けることで、離職を減らし、利用者本位のサービスに繋げるように考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を図るために職員研修の充実は不可欠であると考え、職場内研修(OJT)の充実及び必要な外部研修の受講を積極的に行っている。また、認知症高齢者の理解を深めるための取り組み(認知症専門医や看護師の研修)も定期的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの主催する交流会に定期的に参加し、地域事業所職員との交流を深めたり、他ホームと相互交流を行う等している。職員同士で情報交換を深め、サービス提供の向上に向けて検討をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込時には、利用者及び家族との面談を重ね、顔なじみの関係になってからのサービス提供に心掛けています。体験利用や事前アセスメントを踏まえ、利用後も一人ひとりに合ったサービスを提供するように留意している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況を十分把握し、職員間で共有するとともに、利用者が主体的に生活できるように配慮している。できる限り利用者に寄り添い、利用者とともに支え合い、喜び等を共有できる関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握し、日々の生活においても言動や仕草から、希望や意向、思い等の把握に努め、それを記録し、職員間で共有するようにしている。センター方式を導入し、活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の希望と意向を把握し、心身機能等を踏まえて、短期・長期目標を定め、一人ひとり具体的な介護計画を策定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングと提供記録を積上げて、三ヶ月に一度の見直しを行っている。見直し時には、利用者及び家族から改めて意向や希望を把握する他、職員間で意見を出し合い、見直しを行っている。なお、必要に応じて随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム特性を活かし、利用者や家族の時々々の希望に沿って柔軟に対応できるようにしている。利用者が何を求めているのかを常に考え、それが利用者自身で表出できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。必要に応じてかかりつけ医への受診に同行し、受診結果を家族に速やかに報告している。また、かかりつけ医とは何でも相談できる関係づくりを行っている。法人理事となっている認知症専門医の協力も得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対するアンケートを実施し、終末期への対応についての意向を確認している。重度化した場合の方針を家族に示し、ホームでできること、できないことを明確にして対応できるようにしている。	○	ターミナルケアに対する利用者及び家族の思いは様々であり、今後も早い時期から定期的に意向を把握する等の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねることがないように留意して支援を行っている。支援方法等について、職員間で定期的話し合い、確認をしている。個人情報の保護についても理解を深め、適切に扱うように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねの一日の流れはあるが、利用者の意向を尊重し、それに配慮しながら、充実した生活が送れるようにしている。利用者がどう過ごしたいのか、何をしたいのか、等を常に考え、その人らしい生活ができるように考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や好みを把握し、利用者と相談しながら献立を決めている。利用者とともに食事準備(調理)を行い、一緒に楽しく食事する一時を大切にしている。支援の必要な利用者にもさりげなく関わりながら、アットホームな雰囲気づくりに工夫している。	○	食事が利用者にとって楽しい一時であることを十分認識し、楽しい時間となるように工夫している。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望でいつでも入浴できる。入浴を好まない利用者にも声かけし、少なくとも週2回以上入浴できるよう支援している。また、シャワー浴も併せて提供し、利用者がリラックスできるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、趣味や楽しみごとを把握するとともに、それが毎日の生活の中で取り組めるように支援している。また、ホーム内の役割についても自然に分担され、気晴らしと張り合いをもって生活できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに閉じこもることが無いように、積極的に外出支援を心掛けている。身体機能の低下を課題としているが、関心をもって楽しく外出ができるように工夫している。	○	歩行が困難になっても、利用者が関心をもって外出できるように取り組んでいる。今後もその取り組みに期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解し、日中の施錠は一切行わない支援を行っている。敷地との境に植え込みやフェンス等も無く、開放的である。徘徊や帰宅願望等があった場合には、散歩に同行したり自動車ドライブに行く等して、工夫して対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣企業や地域自治会の協力が得られる関係となっている。災害があった場合には、駆けつけてもらえ、訓練も定期的と一緒にしている。市内で組織されている災害支援ネットワークにも参加し、幅広く協力と連携が図れる関係となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや嗜好に沿った食事を用意しているが、栄養のバランスには留意し、水分摂取量と併せて毎食後の確認が行われている。近隣から貰った野菜等も取り入れ、野菜を中心としたメニューとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂(台所)が続いていて、家庭らしい造りとなっている。利用者が居心地良く過ごせるように、季節感のある植物を飾ったり、装飾を行う等配慮し、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備え付けのベッド以外は、利用者の使い慣れた家具や調度品、装飾品等が持ち込まれ、一人ひとりが居心地良く過ごせるように支援をしている。定期的な清掃にも心掛け、職員も関わりながら清潔を保つ居室としている。		